

ほむ・ほむ通信

No. 70

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ほむほむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



(C) UNICEF Myanmar/2010/Myanmar frame

ミャンマーの子どもたち



© UNICEF Nepal/2015/KPage

子どもにやさしい空間で
笑顔を見せる子どもたち(ネパール)。



(C) 日本ユニセフ協会

ユニセフ・南スーダン事務所
ジョナサン・ヴェイチ代表

目次

◇ネパール大地震 緊急募金 1

◇知っとこ。ユニセフ 3
ミレニアム開発目標

◇世界の子どもたちは今 4
ヨーロッパ難民危機

◇生協のユニセフ支援活動 5
全国の生協が取り組む、指定募金いろいろ

◇トピックス

＊ 南スーダン：紛争下の子どもたち 7

＊ ユニセフ・キルギス共和国現地事務所 ^{もくお} 空尾代表 報告会開催

若者を戦いに行かせないために、できること 8

ほむ・ほむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



ネパール大地震 緊急募金

～地震発生から6ヵ月 ネパールの子どもたちを守る支援～



© UNICEF Nepal/2015/KPage

子どもにやさしい空間で笑顔を見せる子どもたち。

2015年4月25日、ネパールの首都カトマンズをマグニチュード7.8の地震が直撃。被災地域では、水や食料の不足、停電、通信網の遮断が続きました。こうした危機において、子どもたちは特に厳しい状況に置かれました。

ユニセフはみなさまにお寄せいただいた募金をもとに、水と衛生、保健、栄養、教育、子どもの保護の分野において、大地震で被害を受けた子どもたちへの支援に全力を挙げてこの半年間、活動を行ってきました。

◆ 大地震から6ヵ月、ユニセフの支援

被災地震発生から6ヵ月で、ユニセフはポリオやはしか、風疹の予防接種を5万人以上の子どもたちに実施し、破壊された保健施設に代わる仮設の病院や保健センターを設置しました。また、子どもたちが適切な栄養を摂れるようにするため、ユニセフによる訓練を受けた地域の保健ボランティアが約50万人の子どもに支援を行っています。そしてネパール政府と協力し、子どもたちが安全な飲料水にアクセスできるようにしています。

暴力や人身売買、搾取の危険から子どもたちを守るため、ユニセフは地区の越境地点やインドや中国との国境付近に検問所を設置しました。危険にさらされている子どもたちを特定するため、設置されたすべての検問所には、訓練を受けたスタッフが配置されており、これまでに338人の子どもたちが人身売買の危険から守られました。

■ ストーリー① ～子どもの人身売買を撲滅する！～

ユニセフが支援する子どもの保護パートナー団体のカルパナさんは、毎日8時間以上の時間を費やして、郡境にある車両の検問所でネパール警察をサポートしています。ここはカトマンズから南部テライ地域を抜けてインド国境へつながる場所のため、人身売買の経由地となっています。

「私たちの主な仕事は、公共バスなどに乗り込み、子どもと女性に関するどんなに小さな情報も記録するということです」とカルパナさん。彼女は子どもと女性の人身売買防止に関する啓発リーフレットを配布して、警戒を呼びかけています。



© UNICEF/PFP2015-3427/Shrestha

人身売買防止の啓発リーフレットを配布。

震災以降、多くの子どもたちがカルパナさんたちによって保護されました。

■ ストーリー② ～震源地の村で予防接種キャンペーン～

ユニセフの支援による予防接種キャンペーンがゴルカ郡のパールパック村で実施されました。ゴルカ郡は今回の大地震の震源地の村でした。

人里離れたこの村は、地震の被害で村の電気は途絶えていて、ワクチンの保冷が難しい状況でした。この村の6～59か月の子どもをはしか、風疹、ポリオから守るため、険しい道を車と登山を経てワクチンが届けられました。ワクチンが到着したとき、あたりは真っ暗でした。



© 日本ユニセフ協会/2015
険しい山道を超えて、ワクチンを届けます。

村の保健所のアニル・シャー氏は、険しい山道でのワクチンの輸送に比べたら予防接種キャンペーンの実施は容易に感じるといいます。シャー氏は「村の人々はみんなとても喜んでいて、ワクチンを届けてくれたユニセフに感謝しています」と笑顔で語ってくれました。

■ ストーリー③ ～母乳育児週間に活躍する地域普及員～



© 日本ユニセフ協会/2015
上腕を計測し、栄養不良でないか確認。

8月第1週目に世界母乳育児週間を迎えました。地震の大きな被害を受けた14郡では、キャンペーン中、ユニセフの支援を受けた地域普及員が戸別訪問を行い、生後2年の子どもたちへの健康と下痢や肺炎といった病気を防ぐ母乳育児の啓発を行いました。

「どこへ行っても、地震の被害でトラウマやストレスを抱えている若い母親に出会いました。このことが母乳育児に心理的な影響を与えています。」とゴルカ郡の地域普及員、ミーナは訴えます。ミーナは130人近い授乳中の母親たちを訪ね、適切な母乳育児の方法と恐怖とストレス軽減に向けた心理的サポートを行いました。

◆ ユニセフ・ネパール事務所 穂積代表より日本の支援者のみなさまへ

震災直後より、ネパールの子どもたちと彼らの未来のために、日本の皆様から、温かいご支援とご協力をお寄せいただき、心から感謝を申し上げます。

緊急支援から復興支援へと推移する中で、ユニセフの役割として、冬の到来に先立ち、地震で被害を受けた丘陵地帯に暮らす子どもたちや女性の保護、そしてネパールがよりレジリエントな(災害に強い=しなやかで回復力のある)国、将来起こりうる災害への備えがある国になるための支援に、焦点をあてていきます。

(参考資料:ネパール大地震緊急支援6か月レポートより抜粋・翻訳)



©UNICEF tomoo hozumi
子どもたちと交流する穂積代表。

ネパールの子どもたちに対するみなさまのあたたかいご支援に感謝いたします

日本ユニセフ協会が4月26日から受付を開始した「ネパール大地震緊急募金」には、全国で85以上の生協が取り組み、2億円を超える募金が寄せられました。当初、ユニセフ本部が国際社会に呼びかけた1億2,000万米ドル(約144億円)のうち、2015年9月末時点ですでに87%が全世界から集まり、充足の目処が立ってまいりました。みなさまのご協力に感謝いたします。

知りたい? 知っところ。ユニセフ ミレニアム開発目標

2000年、国連ミレニアム・サミットで採択されたミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)。15年後をめざして8つの目標*が掲げられました。

2015年の今年はその期限の年。それらの目標は達せられたのでしょうか?

ユニセフに関係の深い目標の1つ、④ 乳幼児死亡率の削減*を取り上げ、お伝えします。

※ミレニアム開発目標の8つの目標

- ① 極度の貧困と飢餓の撲滅
- ② 普遍的初等教育の達成
- ③ ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
- ④ 乳幼児死亡率の削減
- ⑤ 妊産婦の健康の改善
- ⑥ HIVエイズ、マラリア及びその他の疾病の蔓延防止
- ⑦ 環境の持続可能性の確保
- ⑧ 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

目標 ④

2015年までに5歳未満児の死亡率を1990年の水準の3分の1に削減する

今年のハンドインハンドのテーマは「すべての子どもたちに5歳の誕生日を」です。

成果

- 1990年代初頭以降、5歳未満の乳幼児死亡率改善のペースは世界規模3倍に、加速している。
- 1990年(1000人あたり90人)の死亡率→43人へと減少した。
- はしかの予防接種は2000年から2013年の間に1560万人の死亡を防いだ。
- 予防可能な疾病により乳幼児死亡数の著しい低下は、人類史上でもっとも偉大な成果。

MDGs達成に対する最終評価 2015より

遺された課題

5歳未満死亡率を1990年レベルの3分の1にするというMDGsの目標は、達成されませんでした。

今年出されたユニセフの報告書では、達成までにあと10年以上かかると分析しています。

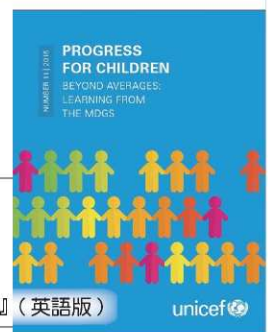
また、報告書では、グローバルなデータではなく、地域や国レベル、国内の地域や男女別、所得階層で見ると、未だ格差が残り多くの子どもたちが開発の恩恵から取り残されている現状も明らかにしています。

詳しくはこちらをご覧ください ↓ <http://www.unicef.or.jp/news/2015/0194.html>

ユニセフによる報告書

「子どもたちのための前進 2015 : MDGsから学ぶ平均値に隠された子どもたちの実情」

『子どもたちのための前進 2015』(英語版)



【アンソニー・レーク事務局長の言葉】

「MDGsは国際社会が子どもたちに大きな進展をもたらす助けとなってきました。しかし同時に、どれだけ多くの子どもたちを私たちが置き去りにしてしまっているかも明らかにしたのです。最も不利な状況にある子どもたちの命と未来が重要なのです。子どもたちのためだけでなく、彼らの家族、彼らの住むコミュニティや社会のためにも。」

「私たちはこれまで学んできたことを生かし、最もニーズの大きい子どもたちを支援することができますはずです。また、そうしなければなりません。」



世界の子どもたちは今

ヨーロッパ
難民危機



母国の激しくなる内紛等からのがれ、ヨーロッパに到着した難民は、2015年10月の1か月間で、
昨年1年間の難民数と同じ数になり、その半数以上がシリアからの難民です。安全でより良い場所
を求めて、いくつもの国境を越え、海を渡り、危険と隣り合わせの長い旅です。その中に、親とはぐ
れたり、保護者を伴わない子どもたちが急激に増加しており、支援が急がれています。

こんな小さなゴムボート
にギュギュ詰め!!
定員オーバーだよ~!

うわあ~!

海のルートでは、今年に
入ってから既に3,500人ほ
ど命を失っているんだ。
陸のルートだって危険が
いっぱいなんだよ。

1

君の
お母さんや
お父さんは?

途中ではぐれ
ちゃったんだ~!

ぼくたちの住んでいた
町は、武力勢力が拡大し
て、安全では無くなった
ので、親から、2人で
ヨーロッパへ行くよう
に言われたんだ。

2

難民の約3分の1が子どもたち。
親とはぐれたり、子どもだけで旅を
している場合も多く、適切な
保護が必要なんです。

3

ヨーロッパを
目指す道中には、
地雷や不発弾が残って
いる場所もあり、
情報提供も行って
います。

4

「子どもにやさしい空間」

子どもたちに安全な休む場所
と遊び場。それにトラウマや
傷ついた心を癒すため、カウ
ンセラーによる支援にも力を
入れているんだって!

これから寒くなるし、
ますます厳しく、
つらい旅になるね。

子どもたちが、早く
安心できるようになる
といいね。

生協のユニセフ支援活動 *Partnership*



全国の生協がとりくむ、指定募金いろいろ

指定募金とは、募金の送り先の国とプロジェクトを指定して送る募金のことです。生協がとりくんでいる、指定募金を紹介します。



ブータン水と衛生プロジェクト（コープさっぽろ）

コープさっぽろは、2010年、ユニセフ指定募金として、ブータン「水と衛生プロジェクト」を3年計画で立ち上げ取り組んできました。2013年には、第2期として3年延長することを決め、現在、2015年度の募金（第2期3年目）に取り組んでいます。

2010年度から2014年度までの合計募金額は約5700万円です。

この募金を使って、ブータンの学校に衛生的なトイレや水道が設けられ、多くの子どもたちが改善された給水施設や衛生施設を利用しています。



児童労働と闘うネパール指定募金（神奈川県ユニセフ協会・神奈川の生協）

神奈川県ユニセフ協会は、2014年1月より「児童労働と闘うネパール指定募金」に取り組んでいます。ネパールはアジアで最も児童労働に従事する子どもの割合が高い国のひとつです。子どもの教育機会を奪うだけでなく、身体、精神にも深刻な影響を残す児童労働の撲滅をめざして、神奈川県ユニセフ協会ではこの募金に5年間にわたって取り組んでいく予定です。この取り組みには、神奈川県の生協が協力しており、ユーコープほかで取り組まれている「みるくぼきん」で集まった募金の一部も、この指定募金に充てられています。



みるくぼきん（ユーコープ、全日本海員生協、うらがCO-OP、富士フィルム生協）

みるくぼきんは、コープの牛乳1Lにつき1円を、ユニセフ「児童労働と闘うネパール指定募金」・国連WFP「学校給食プログラム」を通じて世界の子ども達の支援に役立てる活動です。8年目の今年も、6月～8月まで取り組み、CO・OPマークの牛乳の利用が506万4,043円の支援につながりました。このうち、約406万円がユニセフに募金されました。ユニセフの募金は、ネパールで児童労働を強いられている子どもたちに学習の場を提供するために使われます。





ハッピーミルクプロジェクト・シエラレオネ（コープネット事業連合）

コープマークの牛乳 1 件お買い上げにつき 1 円を、ユニセフに寄付し、アフリカ・シエラレオネの子どもたちの栄養改善プログラムを支援します。牛乳での支援のほか、宅配サービスの OCR や eフレンズでも、募金が可能です。

2015 年度の実施期間は、第 1 期として 7 月 27 日～8 月 30 日（5 週間）取り組みました。第 2 期は、10 月 26 日～12 月 6 日（6 週間）に取り組みます。



CO・OPコアノン スマイルスクールプロジェクト（アンゴラ共和国）（日本生協連）

日本生協連は、2010 年 11 月 1 日より、「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」を実施しています。コープ商品のトイレットペーパーのCO・OPコアノンロールやCO・OPワンタッチ芯までロールなどを 1 パックお買い上げいただくたびに 1 円の募金を積み立て、ユニセフによるアンゴラ共和国の“子どもにやさしい学校づくり”を支援しています。2010 年 11 月 1 日～2015 年 10 月 31 日までの募金合計額は、およそ 5400 万円です。



東ティモールにおける新生児と母親のためのコミュニティ保健ケアの改善プロジェクト（東北・九州の生協）

東北の生協及び九州の生協が 2014 年度より取り組んでいる指定募金です。コミュニティのボランティアからなる母親支援グループを各集落に置き、家庭内での妊産婦の保健・栄養ケアの推進や保健サービスの利用促進活動を、赤ちゃんとお母さんを対象に行います。



「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援」プログラム（関西・中四国の生協）

関西の生協および中四国の生協が 2015 年より取り組んでいる指定募金です。村のボランティアに対して、母乳育児を推進するボランティア指導員の育成などを行う予定です。





南スーダン：紛争下の子どもたち

独立後の南スーダン

日本ユニセフ協会において、10月21日、ユニセフ南スーダン事務所代表のジョナサン・ヴェイチ氏を迎え、現地報告会がありました。2011年に独立を果たした世界で最も若い国、南スーダン。

しかし、それからわずか2年あまりの2013年に武力衝突が始まりました。家を追われた人々は、約220万人。その半数以上は子どもです。難民となった多くの子どもたちは、武力勢力に徴兵されているのが現状です。そこで、ユニセフは、人道危機に対する支援要請を行い、子ども兵士の解放も進んできています。

感染症が蔓延

南スーダンの経済は破綻しているとジョナサン・ヴェイチ氏は言います。「石油は採掘され、ナイル川もある肥沃な土地ですが、従事する人々が少ないので深刻な食糧危機状況にあります」。そこでユニセフは、急性栄養不良に陥った子どもたちへの支援を行っています。

支援活動は順調に進んできていますが、インフラが整っていない中で感染症が蔓延。「ナイル川の水は飲めず、給水所も破壊されたので、その復旧をし、来年までに病気を撲滅したいと考えています」。



©UNICEF/NYHQ2015-1412/Rich

ベンティウの国連施設内にある保護区に避難してきた人々



©日本ユニセフ協会

ユニセフ・南スーダン事務所
ジョナサン・ヴェイチ代表

教育水準の向上を

また、世界で最も低い教育水準の南スーダン。35年間の紛争により多くの子どもたちが学校に行けなくなったので、『バック・トゥー・ラーニングー再び学ぼうー』というプログラムを通じて、約30万人が教育を受けられるようにまできりました。

いろいろな支援活動を行っているユニセフに、ジョナサン・ヴェイチ氏は感謝の意を表す一方、今後、取り組むべき課題をこう語りました。

「徴兵後、開放された子どもたちの心理的な痛みをどう癒していくか、また将来の社会にとって子どもたちが役立つようにするにはどうするか考えたい。なかでも、最も重要なことは、和平協定の実施を促すこと！子ども・女性の権利の復権を要求していきたいです」。

国として個人としてできること

報告会の最後に、駐南大使の紀谷昌彦氏が話された「南スーダンの自立に向けての配慮が必要で、国際社会による支援の中で、自己実現しながら国として個人としてできることをしていきたい」との言葉が印象的でした。

質問タイムでも活発な質疑応答があり、会場は熱気に包まれ有意義な時間となったようです。

若者を戦いに行かせないために、できること



キルギス共和国



10月30日（金）ユニセフハウスでキルギス共和国の現地代表・李尾雪江さんの報告会が開催されました。

2010年に民族間の抗争が起きました。5年たって子どもたちや10代以上の青少年たちへの過激派からのリクルートとこれからの平和の構築のためキルギスの子どもたちへ行っているユニセフの支援事業について報告します。

旧ソ連時代に5か国スタン（カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメスタン・タジキスタン・キルギスタン〈1993年現国名キルギス共和国に改称、以下キルギス〉）が生まれたとき、飛び地や多民族・多宗教を含んだ形で国境が線引きされ、飛び地もあるなどこれがユニセフの活動を難しくしている要因の一つです。

キルギス共和国は低所得国です。2010年に革命がおき、大統領の独裁はなくなり国民主導に変わりました。周辺国は独裁政治で富は一部の人に握られています。

キルギスのフェルガナ盆地は長い間中央アジアの人口と農業の中心地で、昔は遊牧をするシルクロードの豊かな国でした。今は、点在してくらす多様な民族の人々、複雑な国境、枯渇しつつある資源問題、宗教過激主義などから民族の統一ができていません。

2010年6月に南部都市オシとジャララバードで民族紛争が起き、少なくとも470人が死亡、40万人が避難しました。紛争の原因は、キルギスがアフガニスタンからのマリファナなどの運搬ルートになっていたためです。キルギスは単なる通過国なのに取引での民族紛争に巻き込まれているのです。

不満を抱く若者たちの問題もあります。中学、高校卒業後の就職先がないため生活していけない、過激派への徴用、教育への欠如、貧しいけれども何かやりたいことがある、でも政財界とのコネがないと次に進むことができない…。充実感を持ってない若者が過激派になる例もあります。

ユニセフはキルギスに青少年センターを23か所作り、7万8823人の若者が平和構築のためのトレーニングに参加しました。これは、若者の73%にあたります。またコミュニティを基盤とした幼稚園64校も設立されました。毎年約5000人の子どもたち、そのうち49.9%は女の子がコンピューター、ロシア語などのスキルを身に着けることができます。キルギス人の収入は出稼ぎによる仕送りがほとんどで、ロシア語を習得すればロシアに出稼ぎに行き良い仕事に就き収入を安定させることができます。

地域安定はなかなか難しい課題で、隣国の中にある自国の問題を解決するために、国境を超えて隣国のユニセフ・タジキスタン事務所と協力し、国境の両側の支援を実施し、平等化を図りながら2か国でのユニセフの子どもへの支援を進める試みをしています。国同士の思惑もあり一体化して何かをするのは難しい状況です。国境の両側で平等にユニセフの活動を行い、すべての人の権利を守り、安定を築きたいのですが、問題が山積みです。

最後に、李尾代表は「日本の子どもの権利が守られていない、これからは日本も含めて子どものために活動していきたい」と語られました。

（編集委員 武田）

ぽむ・ぽむ広場

編集後記

今回号でもヨーロッパ難民についてお伝えしていますが、その難民問題に影響を与える大変悲惨なことがおきています。

三か月に一度発行している「ぽむぽむ通信」ですが、内容を決めるミーティングをしながら、皆さんに伝えなくてはと思う事柄がいつもたくさんあることを悲しく残念に思っています。

世界が一つの国になるのは無理でも、お互いの違いを認め合い穏やかに存在していただけるような未来をあきらめないで、「ぽむぽむ通信」に参加していきたいと思っています。

(M)

ユニセフ*コープネットワーク

ぽむ・ぽむ通信

No. 70 2015年12月15日発行

編集 **グループ ぽむ・ぽむ**

スタッフ・編集／蛸沢・小池・武田・立川・土橋・
浜崎・松本・山本・石尾・櫻井

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○次号は、2016年3月15日に発行予定です。

ぽむ・ぽむ通信・ひとことカード

今回の「ぽむ・ぽむ通信」はいかがでしたか？ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。次号以降の参考にさせていただきます。

生協名： _____

氏名（ペンネーム可）： _____ 《 組合員・役職員・その他 》

ご協力ありがとうございました！下記の宛先までお送りください。

宛先：日本生協連 組合員活動部 FAX：03-5778-8125 MAIL：kumikatsu@jccu.coop